

# 第3次

# 四国西予ジオパーク推進計画

令和5年6月策定

西予市

四国西予ジオパーク推進協議会



四国西予ジオパーク  
SHIKOKU SEIYO GEOPARK

# 目次

1	ジオパークの理念	1
2	推進計画策定の目的	2
3	背景	3
4	計画の位置づけ	3
4-1	計画の役割	3
4-2	計画期間	3
5	ジオパークの現状	4
6	再審査制度	5
7	取り組むべき施策とその展開	7
7-1	ジオパーク活動への理解と地域への浸透	7
	(1) 市民に向けたジオパーク理念の理解と浸透	7
7-2	保全と整備	8
	(1) サイトの指定	9
	(2) サイトに関する保全リストの作成	11
	(3) サイトの維持管理	12
	(4) 来訪者への安全対策	13
	(5) どんぶり館などにおける情報発信	14
	(6) 誘導・解説用看板の整備	16
7-3	四国西予ジオミュージアムの活用	17
	施設概要	17
	(1) 展示内容の改善および更新	19
	(2) 企画展の定期開催	20
	(3) 市民や団体と連携した企画展示やイベントの拡充	21
	(4) 団体利用の促進	22
	(5) 受け入れ態勢の強化	23
7-4	ジオパークを活かした持続可能な地域振興	24
	(1) 地域づくり組織等が行うジオパーク活動への支援	24
	(2) 地域の文化や文化遺産、技術継承への支援	25
	(3) ジオパーク活動に主体的に取り組む市民層の拡大	26
	(4) ジオ認定ブランド「四国西予ジオの至宝」の推進	26
	(5) ロゴマークの活用	29

<b>7-5 持続可能なジオツーリズムの創出と推進</b> . . . . .	<b>30</b>
(1) 市内事業者や組織等と連携した多様性を感じられるジオツアー . . . . .	30
(2) ジオガイドの養成 . . . . .	32
(3) 国際交流・インバウンドへの対応 . . . . .	34
(4) 交通網の充実と利便性の向上 . . . . .	35
<b>7-6 学習・教育活動への活用</b> . . . . .	<b>36</b>
(1) 市民向けのジオパーク学習 . . . . .	36
(2) 児童生徒向けのジオパーク学習 . . . . .	37
(3) ジオパーク学習資料の活用 . . . . .	39
(4) 児童生徒向けのガイドツアー . . . . .	40
<b>7-7 防災・減災への取り組み</b> . . . . .	<b>42</b>
(1) ジオパークエリアで起きた自然災害情報の提供 . . . . .	42
(2) 防災・減災教育の強化に向けての他機関との連携 . . . . .	43
(3) ジオと向き合った防災・減災教育の推進 . . . . .	44
<b>7-8 四国西予ジオパークでの調査・研究活動の推進</b> . . . . .	<b>46</b>
(1) 鍾乳洞・カルスト地形に関する調査・研究活動の推進 . . . . .	46
(2) 四国西予ジオパーク内の土壌に関する調査・研究活動の推進 . . . . .	47
(3) その他サイトの価値を高めるための調査・研究活動の推進 . . . . .	48
(4) ジオパーク内での調査・研究活動に対する支援の強化 . . . . .	48
<b>7-9 ジオパークを活かした健康・スポーツの推進</b> . . . . .	<b>50</b>
(1) ジオの魅力を活かしたウォーキングの推進 . . . . .	50
(2) ジオの魅力を活かしたサイクリングの推進 . . . . .	51
(3) ジオの魅力を活かしたその他アウトドアスポーツの推進 . . . . .	52
<b>7-10 その他</b> . . . . .	<b>54</b>
(1) ジオガイドネットワーク及び地域ガイド組織への活動支援 . . . . .	54
(2) JGNやブロック地域と連携した活動の推進 . . . . .	55
(3) 推進協議会体制の強化 . . . . .	57
(4) 効果的な広報活動の戦略的展開 . . . . .	58
(5) 四国西予ジオミュージックプロジェクトの展開 . . . . .	59

# 1 ジオパークの理念

ジオパークとは、科学的に貴重な地質や地形などの地球活動の記録を保全して研究や教育に活かすとともに、地質や地形の成り立ちやそれらと人の暮らしとの関わりを実感して楽しむところである。

ユネスコ環境・地球科学部門の支援により 2004 年に世界ジオパークネットワーク (GGN) が設立され、2015 年の第 38 回ユネスコ総会においてユネスコの正式プログラムとなったジオパークは、その活動を通じて、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) を 2030 年までに達成する取り組みを行っている。特に、自然資源、自然災害、気候変動、教育、科学、文化、女性、持続可能な開発、地域と先住民の知恵、地質保全の 10 分野にユネスコ世界ジオパークは焦点を当てている。

ジオパークは、地質・地形などの自然遺産に加えて、大地とつながりのある文化遺産を保全し、教育に結び付け、その良さを訪問者に楽しんでもらえるようなツーリズムの活動とそのため組織がある地域が、審査を受けてジオパークネットワークに加盟できる。日本においては、2008 年に国内の認定機関として日本ジオパーク委員会 (JGC) が発足し、JGC が認定した地域により 2009 年に日本ジオパークネットワーク (JGN) が設立された。

4 年に一度の再認定審査によってその適正や活動度が定期的にチェックされ、常にその品質の維持と向上が求められる。

GGN では、ジオパークを次のように定義しており、JGN も本指針に準拠した活動を行っている。

1. 地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
2. 公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
3. ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
4. 博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
5. それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
6. 世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

## 2 推進計画策定の目的

本推進計画は、私たちの足元の大地の成り立ちや大地が育んだ多様な生態系、そこで暮らす人々の営みを知るジオパークの活動を通じて、地球と人間との関わりを理解し、持続可能な社会の構築につなげることを目的としている。地域の魅力を再発見し、地域に対する郷土愛を育むとともに各産業に発展・波及させるため、地域住民及び行政、民間団体、調査・研究機関等が協働で保全し、研究や教育への活用と魅力的なジオツーリズムを推進する。

四国西予ジオパークは、2013年に日本ジオパークネットワークへの加盟認定がなされ、2017年には1度目、2021年には2度目の再審査を受けて認定が継続された。2015年にジオパークのプログラムがユネスコの正式な事業となったことにより日本ジオパーク委員会の審査基準も変化しており、2021年度の審査結果を踏まえながら、持続可能な地域社会の実現を目指すための総合的な指針として本推進計画を策定する。



図 1. ジオパーク推進活動概念図

### 3 背景

西予市は、2013年9月24日に日本ジオパーク委員会から市内全域が「四国西予ジオパーク」として日本ジオパークネットワークへの加盟が認められた。認定審査に係る現地審査において、西予市ならではの地域資源を活かすために行っている住民一体となったジオパーク活動が高く評価されたことにより、愛媛県内初となる日本ジオパークとなった。



日本ジオパーク再認定

また、2017年度及び2021年度には日本ジオパーク委員会によって4年ごとに行われる再認定審査があり、2022年1月28日には四国西予ジオパークとして2度目となる再認定を受けた。

### 4 計画の位置づけ

#### 4-1 計画の役割

日本ジオパーク認定時及び再審査時に日本ジオパーク委員会から提示された課題解決等に向けて積極的かつ計画的に取り組み、ジオパーク活動を通じた市民の郷土愛の醸成と地域の持続可能な開発を行うための基本的な考え方を明らかにし、具体的な計画を示す。

#### 4-2 計画期間

本計画書による計画期間は、計画策定日から次回の再認定審査が実施される令和7年度(2025)までとする。なお、令和8年度(2026)からは、第4次計画を策定・実行する予定である。

## 5 ジオパークの現状

日本ジオパーク委員会が認定したジオパークは、46 地域存在している。うち 10 地域（洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸、隠岐、阿蘇、アポイ岳、伊豆半島、白山手取川）はユネスコ執行委員会よりユネスコ世界ジオパークとしての認定を受けている（令和 5 年度 6 月現在）。

※審査機関である日本ジオパーク委員会は、各分野の専門家から構成されており、ジオパークを支援する学会からの推薦と公募によるメンバーで構成された調査運営部会が審査のための調査運営を行う。文部科学省の日本ユネスコ国内委員会から我が国におけるジオパーク・ナショナル・コミッティとして認証されている組織であり、日本ジオパークの認定及びユネスコ世界ジオパークに申請する国内ジオパークの推薦地域を選定する業務を行っている。

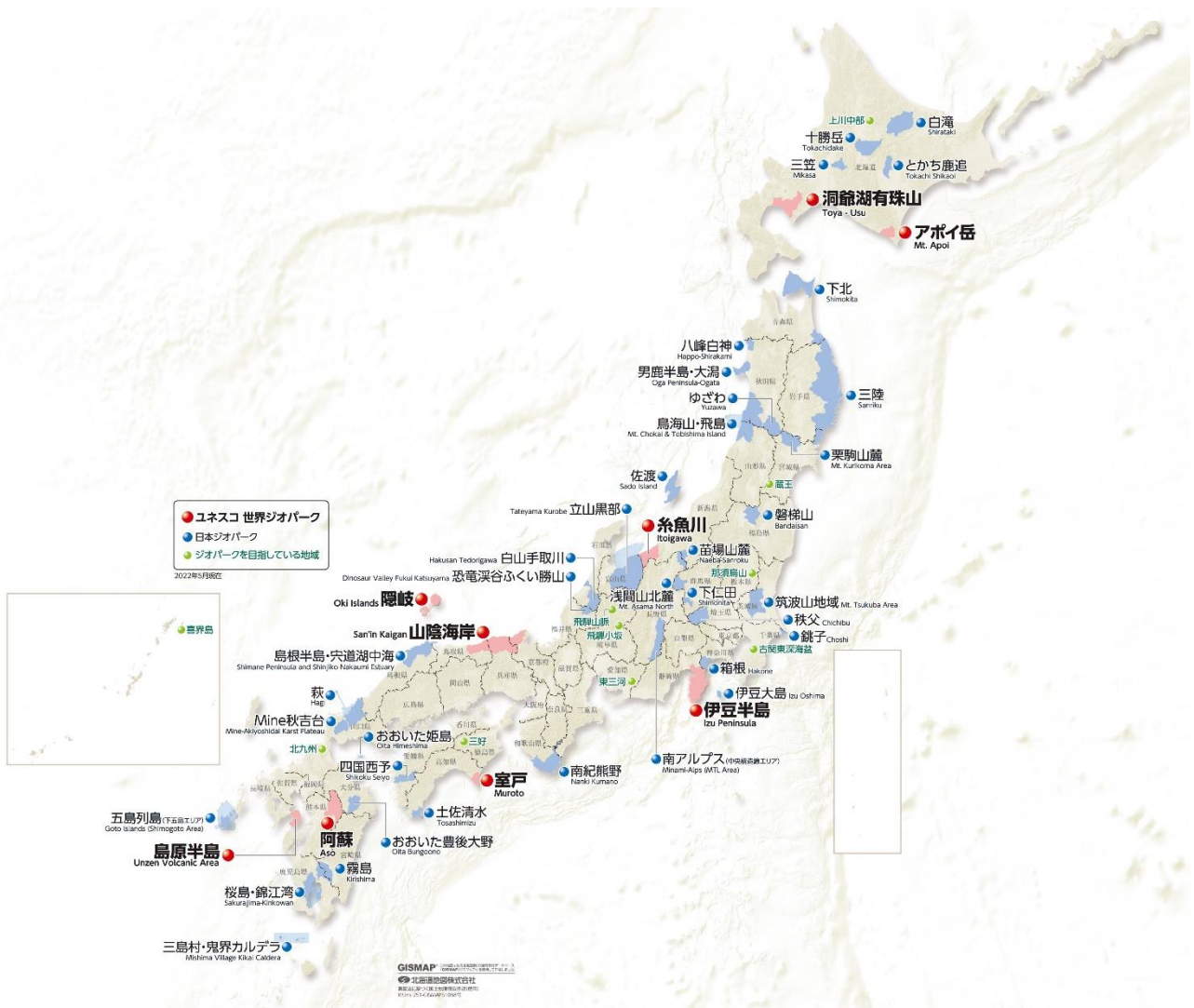


図 2. 日本ジオパーク全体位置図

## 6 再認定審査制度

ジオパークに認定された地域は、日本ジオパーク委員会により4年に一度行われる再認定審査によってその適正や活動度が定期的にチェックされ、常にその品質の維持と向上が求められる。国内ジオパーク（日本ジオパーク）であっても審査基準はユネスコ世界ジオパークと同じであり、そのガイドラインに基づき、持続可能な地域社会の構築と地球資源を守る活動に貢献することが必要である。

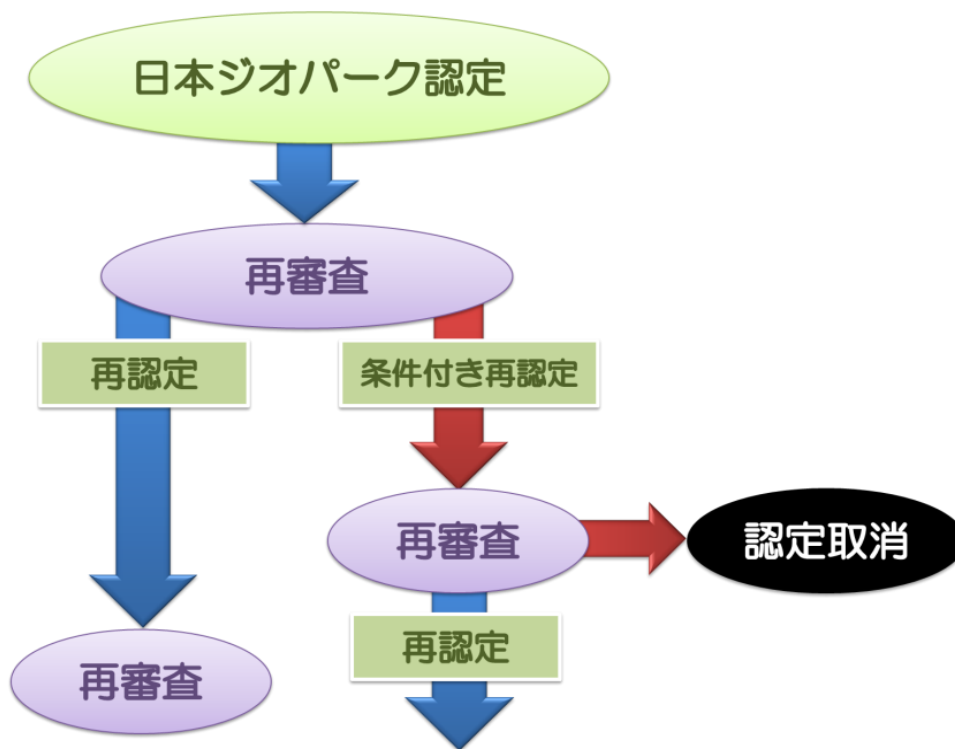


図 3.再審査フロー図

### 再認定審査における評価ポイント

1. 認定時及びその他の機会に日本ジオパーク委員会から指摘した問題点の改善状況
2. 4年間に行った事業及び活動の質と量
3. 運営組織・体制の状況
4. 明らかになった問題点への対応状況



表 1. 再認定審査(2021)における日本ジオパーク委員会評価事項(評価された事項)

No.	内 容
①	協議会内の4つの部会を中心に展開されている、地域住民のボトムアップ的な活動。
②	市役所内の「西予市ジオパーク推進委員会」制度を活用した、持続可能な運営体制の構築。
③	「四国西予ジオパーク まなびのガイドブック」をはじめとする優れた教育プログラムや活用ツール。
④	ジオパーク事務局を離れた人材が、地域でジオパーク活動を実質的に推進している。
⑤	安定的な人員雇用とバランスのとれた協議会事務局員の配置による運営体制の強化。
⑥	「四国西予ジオミュージアム」及び乙亥会館内の「災害伝承展示室」の整備とその活用。
⑦	2018年7月の豪雨災害に見舞われたにもかかわらず、活動の質が低下せず、むしろ地域連携が強化したこと。

表 2. 再認定審査(2021)における日本ジオパーク委員会評価事項(指摘された事項)

NO	内 容
①	地質学的価値を有する「地質遺産」に分類されたサイトを、「地質サイト」とすること。
②	調査が進み、その価値が明らかになりつつある文化的価値のある地域資源を文化サイトに設定する。
③	保全計画を作成し、計画的にサイトの保全を進めること。
④	解説看板の修正や整備を計画的に進めること。
⑤	ジオツアーのモデルコースを作り、来訪客のジオパーク内周遊を図ること。
⑥	ユネスコ世界ジオパーク理念のさらなる理解と地域への浸透を。
⑦	多くの地域住民や団体がジオパーク活動に参画しているということを周知するためにも、ジオパークのロゴマーク掲載を促進すること。

## 7 取り組むべき施策とその展開

### 7-1 ジオパーク活動への理解と地域への浸透

四国西予ジオパークのテーマ

四国山地と宇和海が育んだ海・里・山 — 4億年の物語

#### (1) 市民に向けたジオパーク理念の理解と浸透

##### 計 画 内 容

ジオパークが目指す将来像を発信し、ジオパーク活動の地域浸透を図る。

##### 1. 現状・課題

市民に「ジオパーク」という言葉は浸透してきたものの、西予市がジオパーク活動に取り組む目的や理念に対してより一層の理解を深めるため、今後も普及啓発に関する取り組みを継続して実施する必要がある。

##### 2. 計画詳細

四国西予ジオパークの目指す将来像やユネスコ世界ジオパークの理念などを様々な媒体によって紹介や解説を行い、多様な市民へのジオパークに対する理解度を高める。当面、広報紙や「だいちのめ」、ホームページ、パンフレット、ガイドブック、学習会や講座などを活用して地域への浸透を図る。

##### 3. 達成目標

■ 情報発信した印刷物や研修の数 年 20 回以上

## 7-2 保全と整備

ジオパークに特化した保全のための国内法規は存在しないため、ジオパーク推進室は、四国西予ジオパーク推進協議会や関係組織、団体と連携を図りながら次に掲げる関連法規等によってサイトごとの保全や整備計画の策定に取り組む。

- ① 自然公園法・自然環境保全法
- ② 海岸法・河川法
- ③ 森林法・農地法
- ④ 他の土地利用関係法令
- ⑤ 文化財保護法、愛媛県文化財保護条例、西予市文化財保護条例
- ⑥ 景観法、西予市景観条例
- ⑦ 生物多様性基本法
- ⑧ 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律
- ⑨ 環境基本法、西予市環境基本条例

また、平成26年度に市が制定した西予市ジオパーク推進支援事業補助金交付要綱において、「ジオパーク内にある地層や岩石を含む自然、文化的景観、文化財など、文化サイトの整備・補修等の保全活動」を補助対象としており、本事業の効果的な運用により地域が主体となった保全・整備活動を積極的に推進する。

八幡浜街道笠置峠越及び伊予遍路道(明石寺境内、大寶寺道)が国史跡に追加指定されている。平成31年2月には、ジオツアーでも活用していた北部宇和海エリアのジオサイト「狩浜の段々畑」が「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」として文化庁から国の重要文化的景観に選定され、本市を含む愛媛県南予の5市町の「愛媛・南予の柑橘農業システム」が「日本農業遺産」として農林水産省から認定された。また文化サイト「笠置峠古墳」は令和4年2月に愛媛県の史跡に指定された。

その他、令和4年3月に策定した「環境基本計画」および同年4月に策定した「西予市西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」に基づき、環境アイコンとなりうる宇和盆地に飛来するツル・コウノトリを始め、希少な動植物についても保護、保全に努め、多様な生態系を維持する。

## (1) サイトの指定

### 計 画 内 容

「四国西予ジオパークにおけるサイト等の定義ならびにその指定等に関する作業指針」を再認定審査の指摘事項に基づき改訂するとともに、その指針に基づきサイトの価値を明らかにし、価値が明らかとなったものはサイトの指定を進める。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオパークでは「四国西予ジオパークにおけるサイト等の定義ならびにその指定等に関する作業指針」に基づき 30 のサイトを指定している。(令和5年6月現在、表3)。

しかしながら、令和3年度の日本ジオパーク再認定審査の結果をまとめた「第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書」の「I 緊急に着手ないし解決すべき課題(おおむね1年以内)」の中で、「サイトの再整備」と「サイトの確定」が必要であると指摘された。

そこで、作業指針の改訂と改訂後の作業指針に基づくサイト区分を明確にする。そのうえで指針に基づき価値が明らかになったものはサイトへの指定を進める。

#### 2. 計画詳細

先述の通知書を鑑みて作業指針を改訂する。改訂にあたっては事務局で改訂案を作成した後、保全部会の中で案について検討を行う。保全部会の検討事項を盛り込んだ作業指針は四国西予ジオパーク推進協議会の総会にて諮り、承諾を得て施行する。

作業指針改訂版の施行後は速やかにサイトの整理(「地質遺産」は「地質・地形サイト」に変更)を行う。その成果はJGN事務局ならびに令和3年度再認定審査に携わった現地調査員にも共有する。その後は、文化サイトを中心として指針に基づき価値が明らかになったものについてサイトへの指定を進める。サイトの指定に関しては研究者やNPO法人等を含んだ専門家等から意見を受け、指定の質及び透明性を維持していく。

### 3. 達成目標

- サイトの登録数の増加（種別変更も含む）

表3. サイト等リスト(R5.6 現在)

エリア	No.	名称	種別
北部宇和海エリア	R1	須崎海岸	地質サイト
	R2	嶋山の姫塚	文化サイト
	R3	宇和海狩浜の段畑と農漁村景観	文化サイト
	R4	俵津のしましま地層	地質サイト
	R5	蔵貫白石鍾乳洞と石灰岩	地質サイト
肱川上流エリア	V1	卯之町の町並み	文化サイト
	V2	名水百選・観音水	地質サイト
	V3	桂川渓谷	生態サイト
	V4	大和田橋付近のかめ穴	地質サイト
	V5	野村の河成段丘	地質サイト
	V6	ナルタキ古墳群	文化サイト
	V7	笠置峠古墳	文化サイト
	V8	笠置街道(八幡浜街道笠置峠越え)	文化サイト
	V9	ツル・コウトリ飛来地	生態サイト
黒瀬川エリア	G1	下相のジュラ紀化石の露頭 (旧名称: 下相の海底地すべり跡)	地質サイト
	G2	寺野変成岩露頭	地質サイト
	G3	三滝渓谷	地質サイト
	G4	穴神鍾乳洞	地質サイト
	G5	中津川のトウファ	地質サイト
	G6	魚成の河成段丘	地質サイト
	G7	田穂の石灰岩	地質サイト
	G8	棚田百選・堂の坂の棚田	文化サイト
	G9	嘉喜尾の黒瀬川ロード	地質サイト
四国カルストエリア	K1	ブナの原生林	生態サイト
	K2	源氏ヶ駄場	地質サイト
	K3	寺山の枕状溶岩	地質サイト
	K4	寺山ポリエ	地質サイト
	K5	小松が池	地質サイト
	K6	日本百名洞・羅漢穴	地質サイト
	K7	惣川の地すべり地形と土居家	地質サイト

## (2) サイトに関する保全・活用リストの作成

### 計 画 内 容

各サイトの基本情報を整理したうえで、サイト等の保全や活用を進めるためのリストを作成する。

#### 1. 現状・課題

ジオパーク全域及び各サイトについての基本情報を整理し、保全計画を策定し、計画に基づき保全や活用を行う仕組みが必要である。保全計画の策定にあたっては先の第2次四国西予ジオパーク推進計画において前段階となるサイトリスト及びカルテの作成を進めていたので、まずその作業を完了させ、続いて保全計画の策定に移る。

#### 2. 計画詳細

各サイトにおいては、科学的価値等の根拠や自然環境、法令等の有無、利害関係者の状況などを考慮した保全計画が必要であり、それらに基づいた方法での保全が必要である。

サイトの基本情報を整理し、関係者による定期的なメンテナンスとモニタリング、サイト存続の危険性などが生じた場合の対応策等を具体化することによって持続的な保全と活用につなげる。

#### 3. 達成目標

- 保全リストの作成完了 令和5年度内
- 保全計画の策定 令和6年度内

### (3) サイトの維持管理

#### 計 画 内 容

市民や地域組織、ジオガイド団体等と連携して各サイトの保全を図る。

#### 1. 現状・課題

エリア内の多くのサイトでは十分な点検を実施できておらず適切な維持管理が行われているとは言い難い上、平成30年7月豪雨災害で被災しているサイトも複数ある。

#### 2. 計画詳細

サイトの保全計画に基づき、ジオパーク推進室や経済振興課、各支所産業建設課、市民、地域づくり団体、ジオガイド等が連携して定期的な点検(モニタリング)を行うことで、必要に応じた改善策を講じるとともに、組織的に行うボランティア活動を推進し各サイトの保全を図る。また、被災したサイトや危険箇所、老朽化した設備等への対応は早急に行い、適切な維持管理に努める。

#### 3. 達成目標

##### ■サイトの保全

清掃活動等が定期的に行われているサイトの増加数 年2ヶ所

##### ■定期点検の回数 年2回以上

##### ■保全計画に基づいたサイト保全の開始 令和7年度内

## (4) 来訪者への安全対策

### 計 画 内 容

サイトを安心・安全に見学できる環境整備を進めるとともにガイド等への防災研修を強化する。

#### 1. 現状・課題

サイトの中には遊歩道や安全柵の老朽化により補修・改修が必要な箇所が認められる。特に須崎海岸の遊歩道は令和2年7月の斜面崩落によって、桂川溪谷の第2キャンプ場より奥のエリアは平成30年7月豪雨の被害によって依然として立入りできない状況が続いている。他にも、崩れやすい性質を持った露頭がジオサイトとなっていることによる落石の危険、その他のサイトにおいても転落、滑落、落水、転倒など、見学する際に利用者が被りうる多くのリスクが想定される。

さらに、今後当地域においては近い将来に南海トラフ地震の発生が予想されていることから、サイト見学中の自然災害への対策も急ぐ必要がある。

#### 2. 計画詳細

須崎海岸と桂川溪谷の復旧に関して、ジオパーク推進室と関係部署が連携して、状況をモニタリングしながら今後の復旧を検討していく。

各サイトについては遊歩道や安全柵の補修・改修、安全具の貸出、ピクトグラムを用いた注意喚起を行うことで、安心・安全に歩いて回れる環境を整備する。想定されるリスク情報については、ホームページや看板等において情報公開し利用者への注意喚起に努める。また、大規模災害時における来訪者の円滑な避難誘導を図るために、多様な手段による防災情報の的確な発信を行っていく。



須崎海岸遊歩道

さらに、市民が主体となった継続的な安全対策を推進するために、ジオガイド



等への防災学習を行い、安全対策を強化する。

※1) 何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ。

### 3. 達成目標

■ ジオガイド等への防災学習の実施 年1回以上

## (5) どんぶり館などにおける情報発信

### 計 画 内 容

四国西予ジオパークのビジターセンターとして位置付けている「道の駅どんぶり館」、および「ゆるりあん」、そしてビジターセンターと位置付けていないものの、西予市図書交流館「まなびあん」、「ゆめちゃんこ」に設置しているジオパークの展示を維持管理し、広大な西予市のどの場所においても多くの方がジオパークの情報を収集できるように務める。

### 1. 現状・課題

道の駅どんぶり館の一角に展示施設を設置し、ビジターセンターとして位置付けている。令和2年4月に西予市役所横に西予市 JR 卯之町駅前複合施設「ゆるりあん」がオープンし、一角に観光・ジオ PR スペースが設けられており、こちらもビジターセンターに位置づけている。また西予市図書交流館「まなびあん」、「ゆめちゃんこ」にも小規模ながらジオパークを紹介する展示が設けられている。市内に広がる各サイトの紹介を多面的に行う必要があり、これらの展示を維持管理し、拠点施設であるジオミュージアムへ行かずとも、多くの方がジオパークの情報を収集できるようにする必要がある。

### 2. 計画詳細

ビジターセンターでは、四国西予ジオパークの研究調査情報や季節ごとの自然情報などの定期的な更新を行い、来訪者が満足できるような機能の充実を図る。情報の取得により、そこから各ジオサイトを巡ることが出来るよう整備を進める。

また、施設の従業員等が来訪者からの質問に対応し、簡単な案内を行うことが

できるよう、施設と連携して従業員向けのジオパーク研修、もしくは事務局からアドバイスをを行う機会を設ける。



道の駅「どんぶり館」



「どんぶり館」ジオパーク展示室



卯之町駅前複合施設「ゆるりあん」



「ゆるりあん」ジオパーク展示室

### 3. 達成目標

- 情報更新回数 年1回以上
- 従業員向けのジオパーク研修の実施件数 年1回以上

## (6) 誘導・解説用看板の整備

### 計 画 内 容

四国西予ジオパーク内に、誘導や解説用看板を体系的に整備することを目的として策定したブランディング戦略やサイン計画に基づき、計画的に看板類の拡充を図り、既存の看板を適宜更新する。

### 1. 現状・課題

第1次および第2次推進計画の中で西予市内における国道や県道等の幹線道路には四国西予ジオパークに関する案内標識や解説看板を多く整備してきたが、一部の場所では案内標識や解説看板を必要としている。またこれまでの計画下で設置してきた案内標識や解説看板の中にも更新を必要とする場合がある。

### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、市民や来訪者が目的地に安全かつ円滑に移動出来るよう、その情報伝達手段となる誘導標識や解説板などに関して、平成27年12月に作成した四国西予ジオパークサイン計画に基づきながら引き続き看板整備を行う。解説板の掲示内容については、専門用語を極力避けて、図や写真を効果的に使用した内容となるように作成する。また、看板の内容検討にあたっては多言語対応やQRコードの配置といった更新に際して軽微な修正で対応できるような拡張性のある内容やレイアウトとなるように配慮する。



誘導標識



解説板

### 3. 達成目標

- 整備した解説板の枚数 年2ヶ所以上
- 整備した誘導標識の枚数 年2ヶ所以上

## 7-3 四国西予ジオミュージアムの活用

令和4年4月 23 日に城川町下相に四国西予ジオミュージアムが開館した。当館は前身となる城川地質館の収蔵展示の機能と、総合センターしろかわの集会機能を兼ね備えた複合施設であり、認定前及び再認定時に日本ジオパーク委員会からも整備の必要性を指摘されていた「四国西予ジオパークの拠点施設」と位置付けている。

当館は西予市が掲げる「ジオパークを通じて地域の魅力を再発見し、地域に対する郷土愛を育むとともに、経済への好循環を目指した持続的な取り組み」の中核を成す拠点施設として建設した。来館者に四国西予ジオパークを学んでいただくことはもちろん、展示で四国西予ジオパークを紹介するほか、各サイトをつなぐハブ機能を持たせ、サイトへの回遊を促進する。当館を活用することで、小・中・高等学校などでも効果的な学習を図ることができる。併せて、四国西予ジオパークに関する調査や研究の成果を、学習会や企画展示を通じて市民や来訪者にわかりやすく情報発信していく。

### **施設概要**

施設名称 四国西予ジオミュージアム

所在地 〒797-1717 愛媛県西予市城川町下相 945 番地

建築面積 1,315.73 m<sup>2</sup>

延べ床面積 1,102.20 m<sup>2</sup>

総工費 807,333,600 円

施設の機能 西予ギャラリー回廊／四国西予ジオパークに関する常設展示「西予ジオミュージアム」(一般 500 円、大学生・高校生 300 円、中学生以下 無料)／多目的ホール「ジオカフェ」／企画展示室／研修室／屋外展示エリア／事務室／受付／ジオショップ

開館時間 午前 9 時～午後 5 時

問合せ先 電話番号 0894-89-4028 FAX 番号 0894-89-3400





四国西予ジオミュージアム外観



ジオカフェ



常設展示室「西予ジオミュージズ」



西予ギャラリー回廊



企画展示室1・2

当館の運営は西予市が「四国西予ジオミュージアム管理運営計画」のもと、運営や活動を進めていく。

## (1) 展示内容の改善および更新

### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内に常設される展示内容の改善や更新を随時行い、内容の充実を図る。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオミュージアム内に常設される展示として、西予ギャラリー回廊、多目的ホール「ジオカフェ」、常設展示室「西予ジオミュージズ」があるが、多方面からの意見やアドバイスを取り入れながら、興味を引き、わかりやすい説明文やイラストなどの作成や追加が必要である。

#### 2. 計画詳細

常設される展示内容の改善および更新にあたっては、市民や学術アドバイザー等の協力を得ながら内容の充実を図る。「西予ジオミュージズ」および「ジオカフェ」は、地域の自然や文化に関わる情報について定期的な更新を行う。中でもスマートフォン用のアプリ「ジオクエスト」については内容の更新のみならず活用方法について、広く意見を取り入れながら進めていく。「西予ギャラリー回廊」などを活用して、そこから各ジオサイトや市内の関連施設への興味関心を引くことが出来るよう整備を進める。

また、常設展示室を中心に、地震や火山噴火、気象災害などが多い日本列島の特徴などを地球科学的な視点で学ぶことができるパネル等の整備を行い、ジオパーク学習や防災学習にも対応できるような施設にする。

#### 3. 達成目標

- 各展示物およびコンテンツの改善 年1回以上

## (2) 企画展の定期開催

### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内の企画展示室では、自主企画展に加え、他機関や団体と連携した企画展を定期的を開催し、新しい情報を発信することで話題性や集客力を高める。

### 1. 現状・課題

令和4年度の四国西予ジオミュージアムの来館者数は約3万8千人となり、ジオパークの拠点施設として情報収集や発信の場所として定着しつつある。

令和4年の8月、9月には、東宇和自然史研究会や愛媛昆虫類調査機構、愛媛大学等の協力を得て「ジオと昆虫展」を実施した。

### 2. 計画詳細

企画展示については、地球遺産の価値を楽しみながら学んでもらうことで、保全する世論を高めることを目的の中心に据えて実施する。人間が育んできた文化の多様性は、生物多様性にに基づき、さらに、文化多様性や生物多様性は、地質・地形の多様性（ジオ多様性）に基づいていることができるような企画展をコンセプトに実施する。

### 3. 達成目標

- 企画展示の実施 年1回以上

### (3) 市民や団体と連携した展示やイベントの拡充

#### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内で行われる展示やイベント、学習会に、適宜市民や団体等にも関わってもらい、地域のために活動する施設としての一体感を高め、また地域の情報を市内外に発信していく。

#### 1. 現状・課題

西予市では令和5年度から公民館が地域づくり活動センターに移行し、これまで以上に柔軟な住民自治と行政との連携や魅力ある地域づくりが展開されることになった。地域づくり活動組織の中にはジオパークのサイトを有する地域が多くあり、展示やイベントを通じて地域情報を発信していく事で、地域貢献度を高めていく必要がある。

令和4年度秋には日本洞窟学会第48回大会を四国西予ジオミュージアムで開催した。実施に当たっては地域組織である川津南やっちみる会の協力のもと、円滑な学会運営を実行することができた。各地の洞窟学研究者に対して、川津南地区ひいては西予市の洞窟学的な価値をアピールすることができ、今後の関係人口の増加に維持向上に貢献できたと考えられる。このような地域貢献につながる取り組みを今後も継続して実施していく。

#### 2. 計画詳細

展示については、市民や地域づくり組織を含む団体等の協力を得ながら地域の自然や文化に関わる展示を適宜行う。とりわけサイトに関する新しい成果が得られた際には、公開できる内容については積極的に展示を行い情報発信していく。イベント・学習会については、市民や地域づくり組織を含む団体等の協力を得ながら、地域の理解を深めることができるものを企画する。

#### 3. 達成目標

■企画展示の実施及びイベント・学習会の実施 年2回以上



## (4) 団体利用の促進

### 計 画 内 容

市内外の団体による利用件数の増大に努め、繰り返し訪れて楽しめる施設としての認知度を高めていく。

#### 1. 現状・課題

一般に博物館施設の来館者数は、開館年をピークとして次第に減少し横ばいもしくは下降の一途を辿ることが知られており、四国西予ジオミュージアムの来館者数も将来的には減少することが予想される。来館者数の維持および増加には展示内容の更新や魅力ある企画の実施が不可欠で、様々な団体に向けて見学利用や会場利用を呼び込む努力も必要である。

#### 2. 計画詳細

四国西予ジオミュージアムの展示内容は、広大な西予市の各地域における地形・地理・文化の特色を一望できることが強みの一つである。西予市が有するジオ多様性の紹介は、市外に住む人たちにとっても自分たちの地域を再発見するきっかけにもなると思われ、そのため学校の授業における利用のみならず、西予市内外の一般団体や組織研修の一環としての利用も見込むことができる。また令和5年度からはギャラリーしろかわ、城川歴史民俗資料館との共通券を導入し、研修や旅行の一環として当館を利活用してもらえる環境を整える。

#### 3. 達成目標

- 団体見学の受け入れ回数 年 100 回以上

## (5) 受け入れ態勢の強化

### 計 画 内 容

外国人観光客や障がい者等の様々な立場の方にも利用しやすい施設であるために、施設の改善や職員の接客対応能力の向上につながる研修機会を設ける。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオミュージアムの展示は、スマートフォン向けアプリ内のコンテンツとして展示パネルの文章の英語表記や英語の音声再生機能がある。また敷地内の段差を極力なくし、車いすの方の見学も容易な施設設計を行った。触ることのできる露出展示物もいくつか常設し、視覚障がい者を含めた多くの方にハンズオン体験ができるような展示の工夫も行っている。

こうしたインバウンド対応、障がい者等の受け入れが可能な施設機能を持ちつつも、職員については受け入れにあたっての対応に不十分な面がある。そのため対応能力を高める各研修を受けながら、受け入れの促進に取り組む必要がある。

#### 2. 計画詳細

現場での実践に役立つ、インバウンド対応、障がい者対応の各種研修会を受けつつ、令和5年度以降からモニターツアーも含めた受け入れの実施を図る。受け入れ実施にあたっては西予市観光物産協会や宇和特別支援学校等とも連携しながら進めていく。

#### 3. 達成目標

- インバウンド対応および障がい者対応の研修を実施 年1回以上
- 外国人観光客および障がい者の団体見学を誘致 年1回以上

## 7-4 ジオパークを活かした持続可能な地域振興

ジオパークは持続可能な開発という枠組みの中で経済活動を活性化させることを主要戦略目標の一つに掲げている。

西予市では、地域の特色を生かし住民自らが考え実践するために、せいよ地域づくり交付金事業による住民主体の地域づくりや市内分権が積極的に進められている。地域によって慣習や伝統文化などは実に様々であり、ニーズも多様化しているが、課題を地域自らの手で解決に導くことで活力ある西予市を目指している。今後は市民のジオパーク活動の醸成を図りながら、ジオパークを活かした産業振興を通して新たな経済循環につなげることにより持続可能な地域社会の形成を実現する。

### (1) 地域づくり組織等が行うジオパーク活動への支援

#### 計 画 内 容

地質遺産などを活用した住民主体による地域づくりへの取組みを支援し、ボトムアップによるジオパーク活動を推進する。

#### 1. 現状・課題

地域主権の発想のもと「自分達の地域は自分達の手で」を掲げ、地域住民の主體的な取組みによる地域づくり活動が平成 23 年度から行われている。

事業実施主体である各地域づくり組織においては、地域独自の特産品の開発や地域資源を活用した地域づくり活動へと結び付ける機運等が徐々に育まれつつあるが、ジオパーク活動やジオツーリズムにつながる取組みを拡大していくことが求められている。

#### 2. 計画詳細

地域に存在する自然遺産や文化遺産など、自分達が住む地域の魅力を住民主体となって掘り起こし、外部へ発信していくことを目指している地域づくり組織に対しては、調査や研究等によってそれらの価値を高めるための支援やジオツアーなどで地域振興を図るための基盤づくりを手伝っていく。今後は、地域づくり組織と四国西予ジオパーク推進協議会とが同じ方向性をもちながらジオパーク活動を進めるために「連携協定」を結ぶといった検討も行っていく。

### 3. 達成目標

- 連携協定を結ぶ新規組織数

令和7年度末までに3団体以上

## (2) 地域の文化遺産や、伝統技術の継承への支援

### 計 画 内 容

地域づくり組織等と連携し、ジオとのつながりのある文化遺産や伝統技術の継承を図る。

### 1. 現状・課題

四国山地と宇和海が育んだ四国西予ジオパークには、海・里・山を背景に時代を超えて受け継がれてきた多様な文化や文化遺産、伝統技術が存在している。しかし、市民の高齢化が進み、これらが失われてしまうことが懸念される。

### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室と関係部署は、地域づくり組織や、民間事業者、専門家等と連携して、ジオとつながりのある文化遺産、伝統技術、伝統工芸品、地域の食文化などに関して、地域の課題を明らかにしながら、継承に向けた取り組みを共に進める。

### 3. 達成目標

- ジオストーリーに基づき、新たに情報発信する伝統文化や工芸品数

年1件以上

### (3) ジオパーク活動に主体的に取り組む市民層の拡大

#### 計 画 内 容

ジオパーク活動を通じて経済的・精神的満足度が高まり、生きがいを感じることができる市民を増加させる。

#### 1. 現状・課題

ジオパークが持続的に発展するためには、地域住民や企業、団体など多様な参加者の経済的・精神的満足度を高めることが重要であるが、市民の主体的な取り組みが十分広がっているとは言えない。

ジオパーク応援店制度なども推進しながら今後の取り組みを進めていく必要がある。

#### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、地域住民や地元企業、団体とのコミュニケーションの場、情報共有の場を設け、自由な発言に基づいてボトムアップで形成されたジオパーク活動を推進する。

また、西予市観光物産協会や商工業組織、農林水産業組織、大学等と連携して、多様な参加者によるジオパーク活動を多面的に展開する。

#### 3. 達成目標

- ジオの魅力発信や交流事業を実施する団体・組織の数 年3件以上

### (4) ジオ認定ブランド「四国西予ジオの至宝」の推進

#### 計 画 内 容

関係部署と連携して、四国西予ジオパークに関わるジオストーリーを語ることができる産品をジオブランドとして認証する「四国西予ジオの至宝」制度をさらに充実させる。

## 1. 現状・課題

海拔 0mからの標高 1,400m までの標高差を有する市内特産品は代表的な柑橘のほか、魚介類、米、ぶどう、栗、乳製品、畜産品などがあり、1つの自治体としては全国でも有数の多品目産地である。また、これらを活用した加工品も数多く存在する。それら多くの特産品は地形や気候といった大地の影響を受けたジオの恵みであり、これらの商品は四国西予ジオパーク内のジオサイトと同様にジオストーリーを語る事ができる潜在性を有しており、地域におけるジオパークを活用した新たな産業の仕組みづくりを進める必要がある。

## 2. 計画詳細

四国西予ジオパークの持つ多様な生産環境を活かした産品や、大地との関係が明確でありジオとのストーリー性を有する品目については、他産品との差別化・ブランド化を図ることで、一歩踏み込んだ形でジオパークを活用できる仕組み「四国西予ジオの至宝」を平成 28 年度に制度化した。四国西予ジオパーク推進協議会の物産部会が中心となり、地域内の 1 次産品と産業のマッチングを推進しながらジオの恵みを活かしたブランド化による商品価値の向上を図り、地域産業の活性化をさらに促すため、ジオブランド認証制度「四国西予ジオの至宝」の推進に積極的に取り組む。ジオブランドに認定された産品については、市内外での PR や都市部でのマッチングをはじめ、市及び関係団体等が連携して、消費並びに販路拡大を支援する。



- ・奥地あじ
- ・奥地あじの一夜干し
- ・奥地の海の家飯 生あじ
- ・奥地の海の家飯 あじ塩焼き



- ・明浜産真珠ネックレス～つなぐ～





・カマンベールチーズ 森のろまん



・田力米



・四国カルスト天然水ぞっこん



・豆道楽豆腐



・こどもケチャップ  
・トマトユズポン

四国西予 ジオの至宝  
認証商品数 11品  
(R5.3.31 現在)

### 3. 達成目標

■ブランド認証商品数（累計）

令和7年度末までに 12件以上

## (5) ロゴマークの活用

### 計 画 内 容

ロゴマークの使用方法や活用例を広く周知することで四国西予ジオパークロゴマークの各種媒体や関連農産品への使用を促し普及に努める。

### 1. 現状・課題

四国西予ジオパークを表現したシンボルマークであるロゴを定めており、営利目的でなければ誰でも自由に使用することができる。また、営利目的であっても四国西予ジオパーク推進協議会へ使用許可申請書を提出することにより幅広く利用することができる。

### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、ロゴマークの普及をさらに進めるために、平成27年度に制定した「利用に関するガイドライン」に準じて、広報誌やHPを通じてロゴマークの解説や利用について継続的に市民へ広く周知を行うとともに、市民活動をはじめとする各種イベントやジオパーク応援店、市内の1次産品を活用した地域産業等への使用を促す。

さらに、今後さらなるロゴマークの利用促進のためのガイドラインの適正化を進めるとともに、市外に広く流通する商品包装等への活用や手軽に利用可能なロゴシールの作成検討を進める。



活用例1(木製名札ケース)



活用例2(せいよ Go To 買い物キャンペーン)

### 3. 達成目標

- ロゴマーク新規使用承認年間件数 年3件以上



## 7-5 持続可能なジオツーリズムの創出と推進

ジオパークで行われる観光（ジオツーリズム）は、地質・地形、生物、生態系、地域の文化を、単なる観光資源として開発するものではなく、保全を優先したうえで賢明な利用（ワイズユース）を図る持続可能な開発の方法論に基づくものでなくてはならない（「日本ジオパークネットワークの自然資源保全に関する指針」より抜粋）とされている。

そういった視点を基本に持ちながら、地質・地形、生物、生態系、地域の文化を楽しみながら学んでもらうことを通じて、それらを保全したくなる気持ちにさせることを基本に据えたジオツアーの造成やジオガイド養成にとりくむ。

### (1) 市内事業者や組織等と連携した多様性を感じられるジオツアー

#### 計 画 内 容

市内事業者や組織・団体、ジオガイド等と連携することにより、地質・地形や、生態系、文化、人々の暮らしといった四国西予ジオパークならではの多様性を感じられる魅力的なジオツアーを展開する。

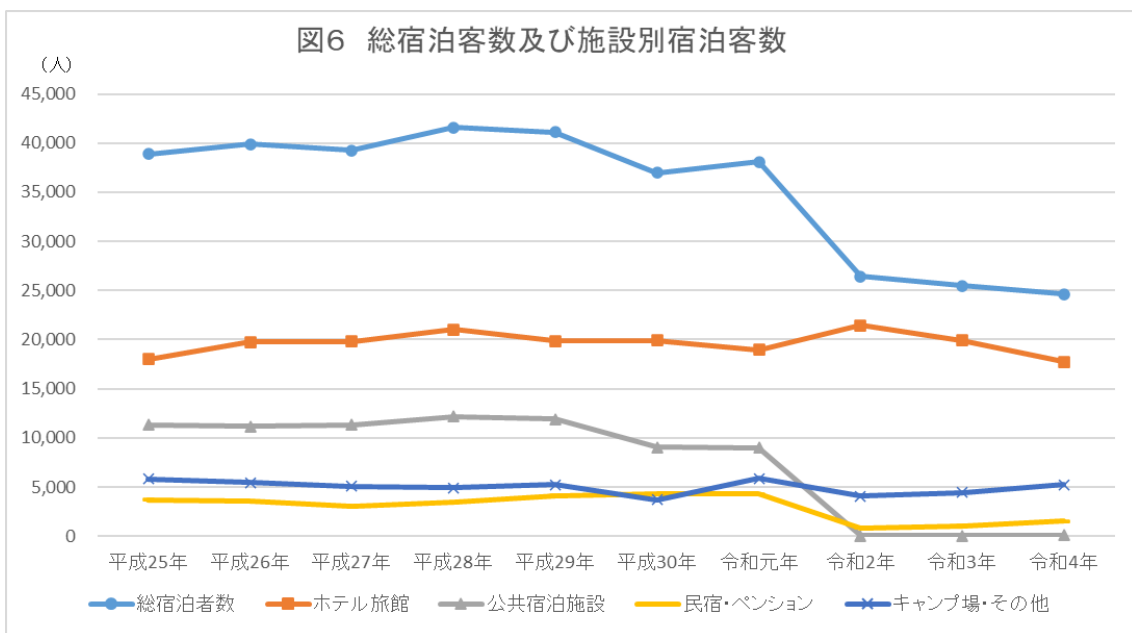
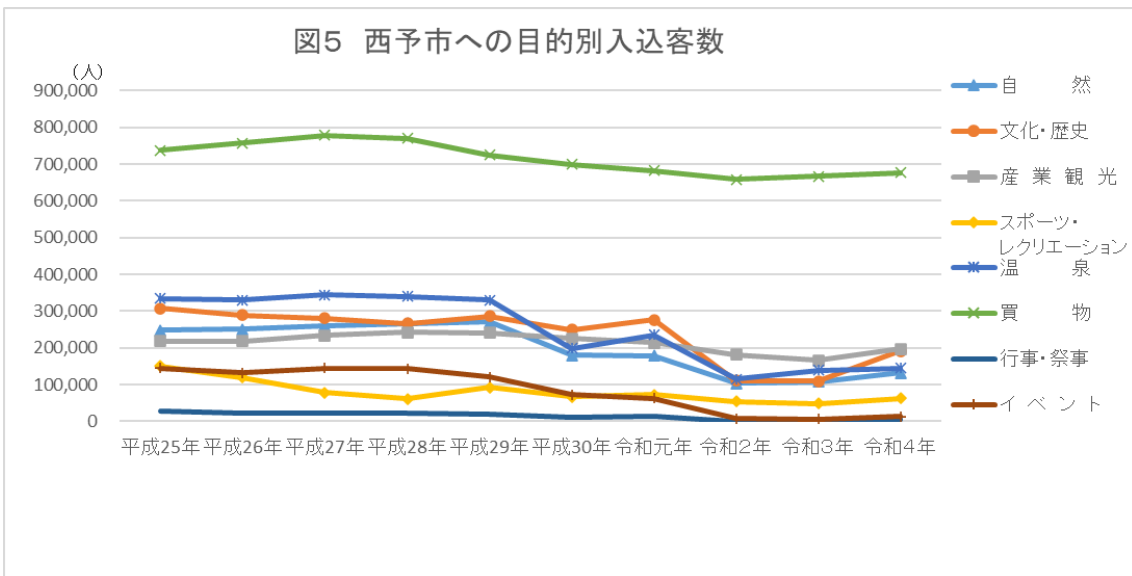
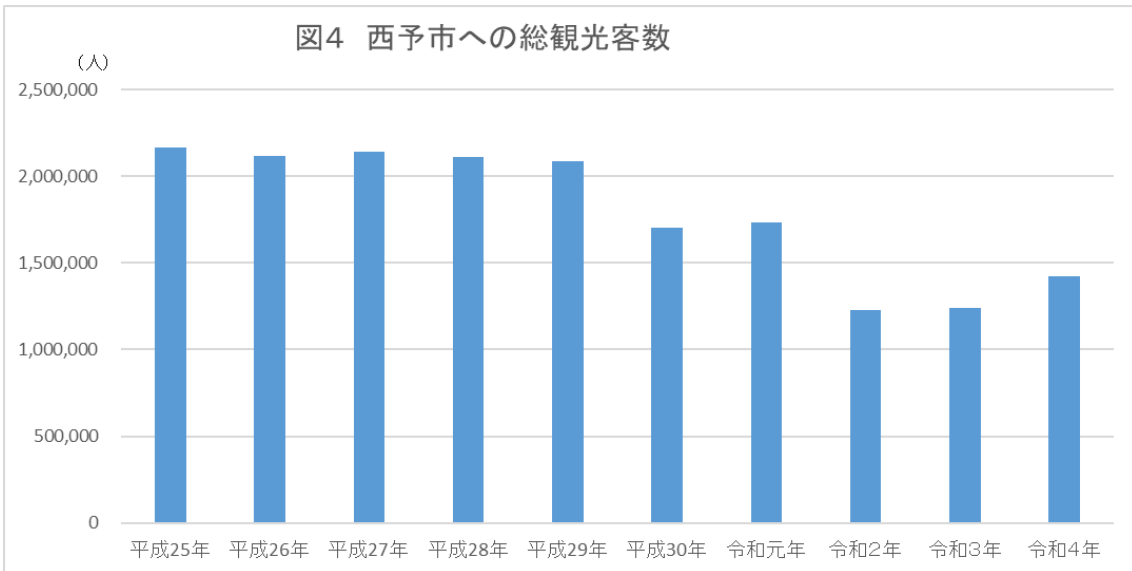
#### 1. 現状・課題

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度以降の西予市における総観光客数および宿泊者数が大きく減少しており、ジオガイド付きのツアー客についても同様の傾向がみられる。市内各地の災害復旧と併せて、ウィズコロナ・ポストコロナ時代におけるジオツーリズムの環境整備を図る必要がある。

四国西予ジオパークは四国山地から宇和海海岸部に広がる東西約50キロ、南北約10キロの中に、人々が暮らしている場所の標高差が1,400mあり、地質・地形や気候、生態系、文化には豊かな多様性が見られる。

これら、多様性を感じられるジオツアーの資源は豊富ではあるが、ツアー化できているものはまだ少なく、これまでも市外の旅行業者が企画したジオツアーが単発的に行われてきたのみである。

さらに、地域に存在するありのままの風景を体感しながら歩く「フットパス」といった手法で来訪者に自分たちの住む地域を楽しんでもらおうといった動きも芽生えてきた。



## 2. 計画詳細

四国西予ジオパークを訪れる多くの来訪者のニーズを捉えるために、多面的な調査やモニターツアー等を実施する。客層や移動手段等を踏まえた魅力的なジオツアーを民間企業及び団体、NPO 法人等が企画、実施するために、経済振興課、まなび推進課、ジオパーク推進室、四国西予ジオパーク推進協議会等が連携して、安全にツアーを楽しめる環境整備や情報発信等への活動支援を行う。

併せて、地域の価値を再評価して関係者等で共有し、“売れる”ストーリーをつくり、認知度を高める努力を行う。

さらに、利用者の情報や満足度のアンケートを実施するなどのマーケティングを行い、市内の観光事業者等とも連携してジオパークの理念に沿った魅力的なジオツアーを造成する。

また、フットパスは、個人の居宅付近や、地域管理の道を通ることが常であり、地域資源への理解やそれらをつなぐ道の清掃など、地域の協力が不可欠であるため、地域組織等による主体的な取り組みに対して積極的な支援を行う。

## 3. 達成目標

- 市内観光事業者等と連携したジオツアー催行件数 年5件以上

### (2) ジオガイドの養成

#### 計 画 内 容

継続したジオガイドの養成によりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。

#### 1. 現状・課題

ガイドの資質向上とガイド業務の適正な運営を確保し、訪問者へのサービス向上を図るために認定ジオガイド制度を整備している。

また、平成24年度より各地域で開催している四国西予ジオガイド養成講座やステップアップ研修を継続することで、さらなる人材発掘とジオガイドの自立支援を行う必要がある。

## 2. 計画詳細

平成 30 年度には、ジオサイトやジオパーク内の見どころ、動植物、文化などの基本的な情報をまとめた四国西予ジオパークガイドブックを出版した。ジオガイドへの配布や道の駅での販売を行っており、その活用とPRを進める。

ジオパーク推進室は、訪問者に対してより安心して適切なガイドを提供するために、四国西予ジオガイド養成講座や認定ジオガイドのスキルアップへの支援等を継続的に実施することによりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。講座では、地質、地形、生態系、文化等を専門とする講師や県立博物館、愛媛大学、スポーツ・文化課等と連携することでジオガイドとしての基礎知識や接遇マナーの向上を図り、四国西予ジオパークを案内することができるガイド養成に取り組む。また、ガイドをボランティアではなく、一つの観光産業と位置付け、ガイド団体が作成するモデルコース及びツアーの企画といった主体的活動を強化しジオガイドとして自立できる体制づくりを支援する。



ジオガイド養成講座

ジオパーク推進室は、ジオガイドやジオガイドを志す市民がスムーズにガイド業務に取り組むために、最も基本的な情報を取りまとめたガイドブックの活用を図り、ジオガイドがそれによる円滑なガイド業務遂行の支援と、ジオガイド各人の知識均一化と質の向上、基本情報の共有に取り組む。

## 3. 達成目標

### ■ 認定ジオガイドの数(累計)

令和 7 年度末までに 20 人

### ■ ジオガイドが観光客にガイド業務を行った件数

年 40 件以上

### (3) 国際交流、インバウンドへの対応

#### 計 画 内 容

国際化に対応し外国人も楽しめるジオツアーへの環境整備を進める。

#### 1. 現状・課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの外国人観光客は大幅に減少しているものの、インバウンド再開に向けて外国人観光客に受け入れられるジオパークを目指して各種表示物等やジオツアーリズムの環境整備を推進する必要がある。

#### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、インバウンド※1に対応するため、愛媛大学や観光物産協会と連携してパンフレットや看板等の多言語化を図るとともに、外国人目線での市内各所の調査を実施し、外国語に訳して情報発信を継続的に推進する。

また、モニターツアー等の実施により、外国人向けの体験ツアーメニューを開発する。



四国西予ジオパークHP（英語版）

※1) 外国人が訪れてくる旅行のこと

#### 3. 達成目標

■多言語化に対応したパンフレットや看板等の数

令和7年末までに7件以上

■外国人対応のツアーコースの数

令和7年末までに2件以上

## (4) 交通網の充実と利便性の向上

### 計 画 内 容

公共交通機関や民間業者等との連携強化を図り、エリア内を巡る交通手段の強化や利便性の向上を図る。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオパーク内の各ジオサイトへのアクセスについては、道路網や公共交通等が十分に整備されていないことから各地を巡る交通手段が非常に乏しく、関係業者との連携も希薄である。

#### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、来訪者が容易にかつ効率的にエリア内を移動できるように公共交通機関や民間タクシー事業者、レンタカー事業者等との連携を強化するとともに、タクシーや駅舎内におけるパンフレットの設置、事業者へのガイド学習を進めることによる利便性の向上に取り組む。

また、将来的には、マイカーを利用できない市民や観光客が気軽にジオパークを体験してもらうために、市内中心部と、どんぶり館やシルク博物館、乙亥会館、四国西予ジオミュージアム、ギャラリーしろかわ、きなはい屋等の城川中心部の施設、宝泉坊関連施設を結ぶ西予市横断型のバス路線造成の可能性について検討する。

さらに、道路網の未発達がアクセスの大きな障壁となっていることから国道や県道の整備促進について長期的な視点をもって継続的に要望を行っていく。

その他、自転車やE-B I K E等のレンタルやサイクリングロードの整備などの事業を推進し、西予市内での観光客等の周遊や交流人口の拡大を図る。

#### 3. 達成目標

■パンフレットやホームページに掲載できる事業者数

令和7年末までに2件以上



## 7-6 学習・教育活動への活用

ジオパークは地質遺産だけではなく大地の成り立ちや生態系や人々の営みまでが対象であり、地域の魅力を知り、持続的な地域社会を創っていくためには絶好の教材であることから、今後も市民や教育現場を対象とした出前講座や現地学習等を通じて四国西予ジオパークについて学ぶ機会を設ける。

また、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成のために意識・行動の変革をもたらす学び(ESD)の役割は重要である。そのため、総合的な学習の時間やPTA活動の一環としてジオパーク学習を積極的に取り込み、若い世代の地域への誇りや地元の価値への気づきを喚起するとともに、地域への関心を高める必要がある。

### (1) 市民向けのジオパーク学習

#### 計 画 内 容

地域や団体・組織のニーズに合わせて出前学習や意見交換等を行うとともに、サイト等を利用した市民向けのジオツアーや学習会を行うことによって、ジオパークに関する幅広い知識を学ぶ学習機会の創出を図る。

#### 1. 現状・課題

ジオパークに関心がある人、自分が住んでいる地域や市内のサイトを知っている人はまだ多くないと考えられる。ジオパークのエリア内での生涯学習プログラムを継続して実施する必要がある。

#### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオパークの普及・啓発に努め、地域間の交流を促進するために、まちづくり推進課やまなび推進課、経済振興課、環境衛生課、危機管理課等と連携し、市民への出前講座やガイド付きのジオパーク学習会を行い、市民と一体となったジオパーク活動を推進する。



せいよ自然と暮らしのカレッジ

ジオパーク学習会は、平成30年から令和2年にかけて実施した「せいよ自然と暮らしのカレッジ」の手法を踏襲し、専門機関や市役所の他部署、地域に詳しい市民等と連携し、地域内を様々な視点から見て歩くことで、新たな見どころや風景の発見につなげ、ジオパークの楽しみ方が理解できるよう工夫し、防災学習の観点からも地域の地形や地質に対しても関心を高められるような内容とする。

市民ジオツアーについては、ジオガイドの利用を促し、よりジオパークへの理解を深めるとともに、ジオガイドが活躍できる機会の拡大を図る。

### 3. 達成目標

- 市民対象としたジオパーク学習会の開催件数 年5件以上
- 市民が参加するジオツアー件数 年10件以上
- 出前講座の開催件数 年5件以上

## (2) 児童生徒向けのジオパーク学習

### 計 画 内 容

教育部局等と連携し市内教育現場での出前授業や野外学習、食育を継続して行うことで、四国西予ジオパークを通じた地域学習や自然科学・人文科学等への学びを促進する。

### 1. 現状・課題

西予市教育基本方針の中では、ジオパーク学習に積極的に取り組むことが明記されている。教育現場において四国西予ジオパークを活用しやすいように、市教委の学校教育課内に学校側の受け入れ窓口を設置し、ジオパーク推進室に学校側の希望内容等をつなぐ体制を整備した。また、市教委も学校のジオパーク学習に教育振興基金の活用を可能とし、学校に経費負担が生じないような仕組みができあがっている。

学校によって取り組みに関しての温度差はあるものの、総合的な学習の時間や理科、社会科（地理歴史）及び学校行事としてジオパーク教育を行うことは表4に示すように教育現場にも多くのメリットをもたらすことも考えられるため、取組みを進めていく必要がある。





教育現場における出前講座



宇和海狩浜の段畑と農漁村景観での野外学習

表 4. 教育現場におけるジオパーク教育のメリット

	実施メリット	メリット概要
①	『またとないふるさと教育のチャンス』	自分が住む地域にすばらしい地域資源があることを教えられるため、自分のふるさとに誇りをもてるようになる。結果として、郷土離れを防ぐことにもつながる。
②	『総合的な学習の時間の格好のテーマ』	四国西予ジオパークを学ぶことで、色々な分野の知識を習得することができるため、総合的な学習の時間のテーマとして非常に扱いやすい。
③	『学習指導要領との合致』	学習指導要領解説「社会編」および「地理歴史編」では、観察や調査・見学などの体験的な活動の充実を図ることや、身近な地域や国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすることが掲示されており、ジオパーク教育においては、これらの活動がもれなく、かつ効果的に実践することができる。
④	『理科教育・社会科(地理歴史)教育の深化』	ジオパークは学際的・分野横断的なものであるが、とくに理科教育、社会科(地理歴史)教育に関連した項目の比重が高い。大地の成り立ちや生態系、人々の営みとの関係を理解することは理科教育の重要項目であり、地域社会や産業の歴史・成り立ち・しくみの理解は社会科教育の根幹をなすものである。
⑤	『防災・減災教育としての機能』	ジオパークでは自然現象や災害についても学べるため、防災・減災教育としても機能する。結果として、災害に強い人材を数多く輩出し、地域の防災力を高める効果もある
⑥	『ジオの恵みを活かした食育の推進』	身近な食をジオの恵みと位置付け、学校給食等を活用し様々な地域の食に関する知識や旬の食材・食文化を学ぶことにより、食を通じた郷土愛を育むことができる。
⑦	『ESD(持続可能な開発のための教育)の実践』	生物多様性や気候変動といった環境問題を鑑みて、人や自然に負荷をかけない経済活動を実践方法や社会の規範を考えることで、地域の資源を持続的に活用することができる人材の育成に取り組むことができる。

## 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、学校教育課や教育現場と連携し、ジオパーク学習を通じて郷土愛を育むとともに、地域の課題を扱うプロジェクト学習の推進等のために、学校教育の正規の授業(総合的な学習の時間等)へのジオパーク学習の導入を促進する。

また、四国西予ジオパークの特徴や、地域の地質・地形の学びを加えた防災教育、植生や昆虫などの生態系、文化や人々の暮らしなどについて、より深く学ぶ機会を設ける。

さらに地産地消や食育の推進については、学校教育課及び健康づくり推進課、農業水産課が連携し、地元食材や郷土料理を通じた食育（ジオ食）を計画的に推進する。それにより学習や食育を通じて地域への誇りを育むことが期待できる。

### 3. 達成目標

- ジオパーク学習の開催回数 年 40 回以上
- 教員向けのジオパーク研修の実施回数 年 1 回以上

## (3) ジオパーク学習資料の活用

### 計 画 内 容

市内におけるジオパーク学習を促進するために、出前授業や野外学習において活用することができる統一した資料を作成しその活用を推進する。

### 1. 現状・課題

西予市全域でジオパーク学習を促進するためには、教師や児童が使用する統一的な学習資料の作成が必要不可欠である。四国西予ジオパーク推進協議会の教育部会の活動によってこれまで、小学校（中学年及び高学年）、中学校、高校といった4つの区分でそれぞれ学習資料を検討・作成しているが、十分な活用には至っていないため、学校教育課と連携して各校へ再度周知を行い、効果的な活用を図る。



教育部会が作成した学習資料

#### ジオパークとわたしたちの暮らし

西予市は、2013年に日本ジオパークになりました。愛媛県内では、けんざいこの「四国西予ジオパーク」だけです。

ジオパークとは、地球や大地をあらわす「ジオ」と、公園の「パーク」を組み合わせた言葉です。大地となかよくなり、大地や地球ができるまでようす、生き物や人々のくらしをかんがえることができる、「しぜん公園」です。

「四国西予ジオパーク」は、海がん部（三瓶町、明浜町）の海はつ0メートルから、1400メートル（野村町大野ヶ原）まで、いろいろな地形や気候があり、たくさんのしゅるいの生きものや、さまざまな人々のくらしがあります。

自分の住んでいる地いきのことをよく知るためにも、ジオパークで研究されていることは、みなさんの役に立つものです。

また「四国西予ジオパーク」には、日本でここだけというような、めずらしい所や、すばらしいけしきなどもあります。じっさいに見たり、さわったり、たくさんのけいけんをしていけば、この西予市でそだったことが「ほこり」になるでしょう。

四国西予ジオパーク推進協議会



## 2. 計画詳細

出前授業や野外学習といったジオパーク教育に活用することができる児童・生徒向けの学習資料が、四国西予ジオパーク推進協議会の教育部会及び学校教育課の協力のもと完成している。発達段階にあわせ、4つの区分で作成した学習資料は、学校教員が取り扱いやすいようパワーポイントとワークシートで構成しているが、今後は計画的に教員向けの研修会等を通じて市内学校への普及を図る。

## 3. 達成目標

- テキストを活用したジオパーク学習を実施する学校の増加 年3校以上

## (4) 児童生徒向けのガイドツアー

### 計 画 内 容

学校教育に特化したパンフレットや発達段階に応じた説明ができるガイドの育成などにより、学校が取り組みやすい環境を整えてガイドツアーを増加させる。

## 1. 現状・課題

学校向けのジオツアーと一般客のジオツアーとをほぼ同様に扱っている現状がある。学校向けのパンフレットや資料、子どもの発達段階に応じたガイドの工夫等により、将来的には他の自治体や他県から、児童生徒の団体旅行誘致にも広げていく。

## 2. 計画詳細

児童生徒向けのガイドツアーに関しては現場の教員が取り組みやすいように、ジオパーク推進室で予め学習向けのコース設定を行ったものの中から選択できるような仕組みを作る。

また、学校向けのジオツアーに特化したガイドの養成に関しては現在のところ行っておらず、ガイドをする中で子どもたちがまだ学習していない内容や用語を使用している可能性もある。学習指導要領の理解や、学校向けのパンフレット、説明資料等を整備することも併せて行い、児童生徒向けのガイドツアーが効果的に実施できるような環境整備を行う。

### **3. 達成目標**

- 学校教育で取り組んだガイドツアーの回数 年 20 件以上
- 児童生徒向けに特化したガイドによるツアーの回数 年 5 件以上

## 7-7 防災・減災への取り組み

一人でも多くの市民が、西予市で発生しうる災害に備え、自分たちが暮らす地域の地質・地形の成り立ちを学ぶことで自然災害と向き合い、防災・減災につながる取り組みを充実させていくことが重要である。引き続き、関係課が連携して活動を行う。

### (1) ジオパークエリアで起きた自然災害情報の提供

#### 計 画 内 容

平成30年7月豪雨災害を風化させないために、災害経験を伝えることができる方策や災害伝承展示室、サイトの活用等を検討し、市民や観光客がより理解を深めることができるような形で情報提供を行う。

#### 1. 現状・課題

過去の自然災害を伝えることができる方策やサイトの活用方法を整理・検討し、市民や観光客にわかりやすい形で紹介できるようにする必要がある。また、防災マップの配布や防災活動等を通じて、市民の防災意識を高める必要がある。



西予市防災マップ

#### 2. 計画詳細

過去の自然災害の発生を学べるサイトの整理や乙亥会館内に整備された災害伝承展示室の活用を通じ、ガイド等が実際に案内する場合において、その情報を活用できるような仕組み作りを進める。また、拠点施設や宿泊施設などにおいては、市民や観光客が目につきやすい場所にハザードマップ等を掲示し、ジオツアー等ではジオの視点で防災・減災への理解が深まるような情報提供を行う。



### 3. 達成目標

■災害情報等が提供できる施設数 5ヶ所



桂川溪谷被災状況



名水百選・観音水被災状況

## (2) 防災・減災教育の強化に向けての他機関との連携

### 計 画 内 容

防災部局や教育部局など、市役所内部との連携や、大学などの研究機関、博物館、NPOなどと連携し、防災・減災教育を強化する。

### 1. 現状・課題

学校や地域で防災教育や減災強化に向けて取り組むためには、庁舎内の連携や他機関からの支援が必要であるため、今後、情報共有等を行いながら取り組みを進める必要がある。

### 2. 計画詳細

自然災害に関する教育や減災強化のために庁舎内他部署との連携や他機関との情報共有をすすめる。特に学校や地域で防災・減災教育を広げていくためには学校教育課やまちづくり推進課、危機管理課、復興支援室等との連携が不可欠であり、統一的な教材の作成なども必要となる。伝える内容に関しては大学や博物館などの専門家等の協力が欠かすことができない。

こういった取り組みを通じて、今後発生する自然災害での人的被害ゼロを目指す。

### 3. 達成目標

■他機関との連携回数 年2回以上

### (3) ジオと向き合った防災・減災教育の推進

#### 計 画 内 容

自分たちの住む地域の地質・地形の特性等を学び、自然災害のおそろしさだけでなく、自然から享受している恩恵についても学ぶ「ジオと向き合った防災・減災教育」を推進する。

#### 1. 現状・課題

ジオパークでは、大地の成り立ちを通して自然現象や災害についても学べることから防災・減災教育としての視点も重要である。

本市では、平成30年7月豪雨災害の発生を受けて、防災・減災教育への取り組みの重要性が改めて認識されるようになった。さらに近い将来、南海トラフ地震の発生も予想されており、特に宇和海沿岸にはリアス海岸が発達していることから、津波がより高くなることも予想される。また、山間部においては、平坦部が狭小な地形のうえに急傾斜地も多く、近年多発するゲリラ豪雨等による土砂災害の発生も考えられるため、市民一人一人が身近な問題として防災・減災教育に取り組む必要がある。

#### 2. 計画詳細

自分たちの住む地域の地形や地質の特性等を学び、自然災害の恐ろしさだけでなく、享受している恩恵についても学習できるような「ジオと向き合った防災・減災教育」を市内の学校及び一般市民に向けて広く推進する。あわせて、乙亥会館内の災害伝承展示室や災害語り部組織、四国西予ジミュージアム等を活用し、被災から学んだ教訓を将来に生かす取り組みを実施する。

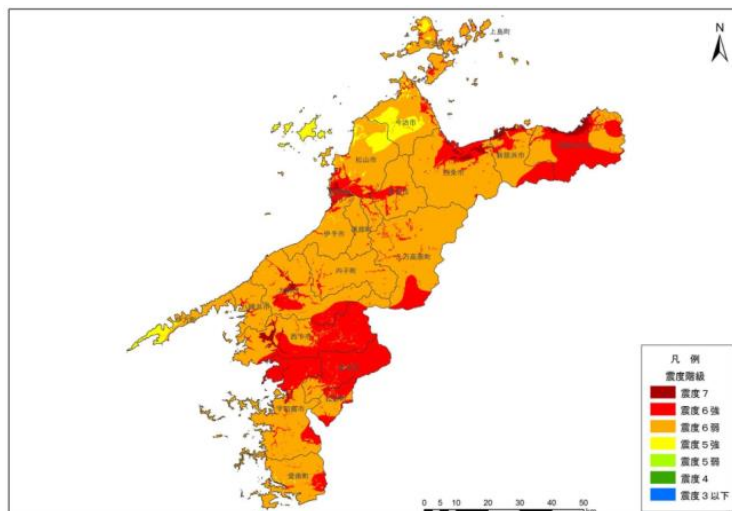


図7.南海トラフ地震発生時に想定される最大震度



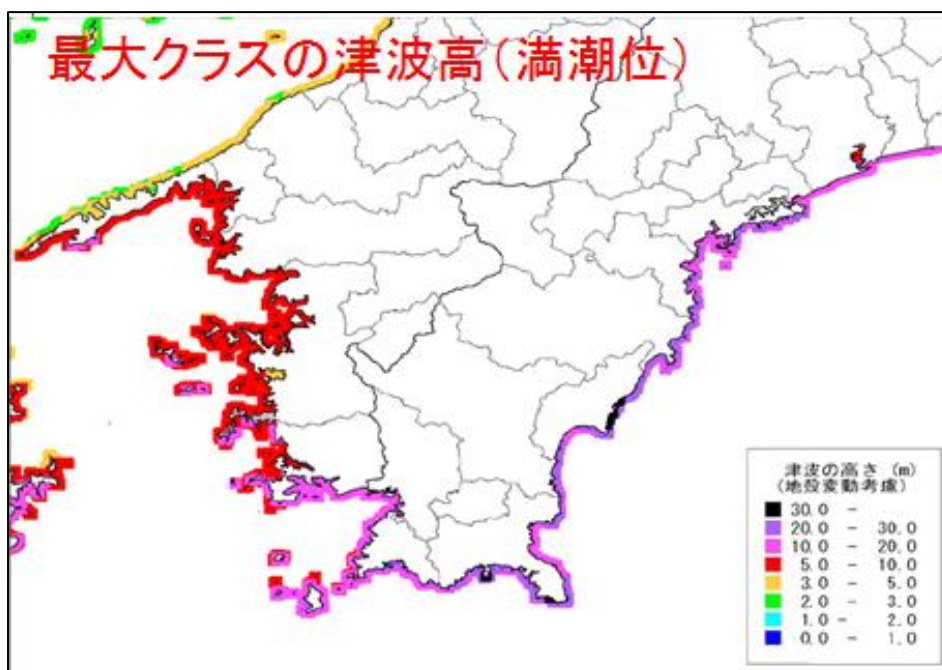


図8.南海トラフ地震発生時に想定される津波高

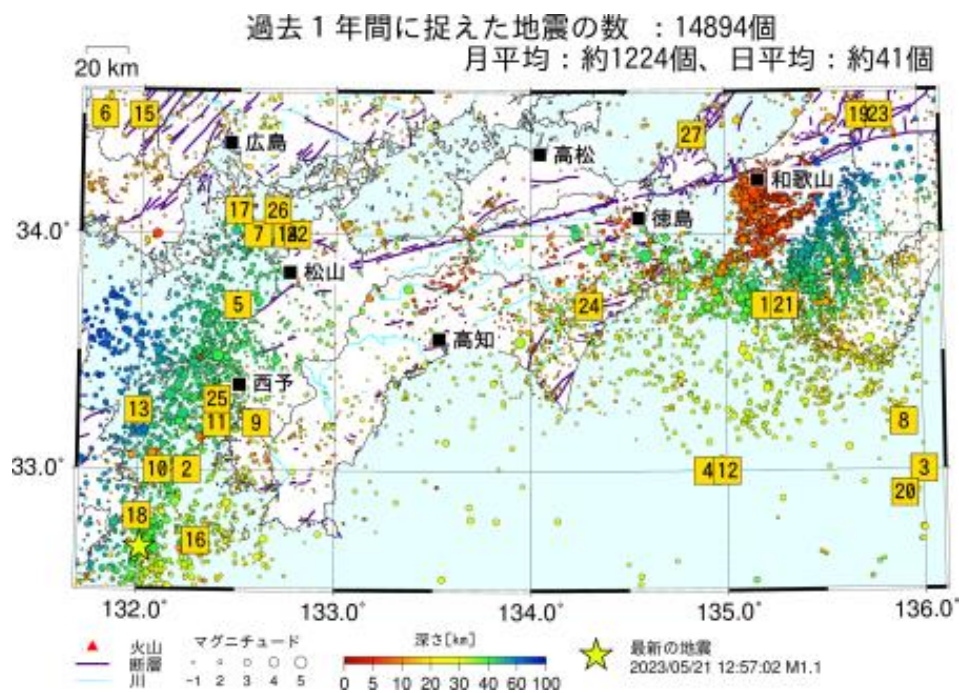


図9.過去1年間に捉えた地震の数 防災科学技術研究所  
(震津波火山観測網による観測(R5.5.21 現在))

### 3. 達成目標

- ジオパークを活用した防災学習の実施件数 年10件以上
- 市内各学校へ活動成果報告物の配布 年1回以上

## 7-8 四国西予ジオパークでの調査・研究活動の推進

ジオパークは「地球遺産の価値を楽しみながら学ぶことで、保全する世論を高める」ことが大きな目的であり、そのためには科学的な価値や意味を整理・確認することが重要である。

さまざまな研究分野の成果を網羅することが望ましいため、地質学だけでなく地形学、考古学、気象学などの知見を整理し、その場所らしさを説明できるように四国西予ジオパーク内での調査・研究活動を推進する。

先の第2次推進計画を遂行してきた期間において、四国西予ジオパークを訪れた研究者やジオパーク関係者との対話から、四国西予ジオパークで不足している分野の知見を見つめなおし、いくつかの分野については第3次計画で定める期間において、特に研究活動を推進する。

### (1) 鍾乳洞・カルスト地形に関する調査・研究活動の推進

#### 計 画 内 容

四国西予ジオパーク内におけるその場所の価値を高めることにつながる。そのため、研究者等による調査・研究活動を推進する。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオパーク（以下、当地域）には様々な異なる年代の石灰岩層が分布しており、川津南の穴神鍾乳洞や惣川の羅漢穴などの鍾乳洞や、大野ヶ原の源氏ヶ駄場を代表とするカルスト地形が存在する。これらの場所の価値を明らかにした研究成果がある一方、羅漢穴の測量図や形成プロセスといった、まだ明らかとなっていないことも存在する。

#### 2. 計画詳細

鍾乳洞やカルスト地形に詳しい外部の研究者の協力を得ながら基本的な情報を調査・整理し、得られた成果については順次共有・発信していく。対象となる四国西予ジオパーク内の土壌の選定や研究方法は外部研究機関からの助言を参考に決定し、選定箇所の調査に関わる交渉や事前準備は事務局が担う。調査成果のとりまとめは外部研究機関が行い、成果に基づく知見の普及・発信は事務局を中心として実施する。

### 3. 達成目標

- 成果物の作成 令和7年度末までに1件以上
- 成果物を元にした普及啓発 令和7年度末までに2件以上

## (2) 四国西予ジオパーク内の土壌に関する調査・研究活動の推進

### 計 画 内 容

四国西予ジオパークに分布する土壌の特徴や他地域との違いを明らかにするため、研究者等による調査・研究活動を推進する。

### 1. 現状・課題

四国西予ジオパーク（以下、当地域）には様々な地形や岩石が存在し、土壌の成り立ちや生態系ならびに人間活動への影響も多様であると考えられる。しかしながら当地域における土壌に関する専門的な知見が不足している。特に宇和盆地等に分布する黒ボク土や明浜や大野ヶ原に点在する石灰岩土壌については、各地域の特産品の生産に深く関わるものの、教科書的な知識のみで「この西予の土壌はどのように形成され、他の地域の土壌と比べてどのような特徴があるか」といったことは語るができない。土壌は地形や岩石に比べて農作物という意味合いで身近な存在であり、市民や生産者の方へ「大地の成り立ちと人の暮らしの関わり」を伝える切り口の一つとして有効である。このような課題分析から、外部の研究者の協力を得ながら基本的な情報を調査・整理し、得られた成果については順次共有・発信していく。

### 2. 計画詳細

調査については土壌学に精通する外部研究機関に依頼する。対象となる四国西予ジオパーク内の土壌の選定や研究方法は研究機関からの助言を参考に決定し、選定箇所の調査に関わる交渉や事前準備は事務局が担う。調査成果のとりまとめは外部研究機関が行い、成果に基づく知見の普及・発信は事務局を中心として実施する。

### 3. 達成目標

- 成果物の作成 令和7年度末までに1件以上
- 成果物を元にした普及啓発 令和7年度末までに2件以上

## (3) その他サイトの価値を高めるための調査・研究活動の推進

### 計 画 内 容

四国西予ジオパークの各サイトで、大地と生態系、人の暮らしとの関連性を科学的に明らかにすることは、その場所の価値を高めることにつながる。そのため、研究者等による調査・研究活動を推進する。

### 1. 現状・課題

各サイトやジオパークの見どころにおいて、地質・地形が生態系や文化、暮らしにどう関連しているのかを明らかにするための科学的な根拠となる資料やデータが不足している。

### 2. 計画詳細

大地との繋がりを語るには科学的な根拠が不足している場所やテーマとなりうる研究分野の選定を行い、それらに適した研究者や専門家に協力を依頼する。

### 3. 達成目標

- 調査したサイトの数 令和7年度末までに2件以上

## (4) ジオパーク内での調査・研究活動に対する支援の強化

### 計 画 内 容

四国西予ジオパーク内での研究者等による調査・研究活動を支援し、ジオミュージアムやジオ関連施設において研究成果や情報の集積を進める。

## 1. 現状・課題

西予市ジオパーク推進支援事業の中に、学術研究支援事業を設けており、市内宿泊施設での宿泊費を助成しているが、市内での本格的な調査に対応できていない。愛媛大学協働センターとの連携やジオミュージアムを活用した調査研究成果の報告等を想定し、支援制度の見直しが必要である。

## 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオパーク内での地球科学、生物、歴史・文化、防災減災、ジオパーク活動を通じた地域づくり・地域経済などの調査や研究に関する活動を支援し、その成果をジオミュージアム等での情報発信や情報集積につなげるために、支援制度や支援体制の見直しを図る。

また、地域内の学術研究の成果をまとめたデータベースを整備する。

## 3. 達成目標

■ ジオパーク内における調査研究の件数      年間 2 件以上

うち、研究者等による市民への成果報告が行われた件数      年間 1 件以上



## 7-9 ジオパークを活かした健康・スポーツの推進

近年の健康志向、レジャー志向の高まりによりノルディックウォークやトレイルランニング、サイクリング、スタンドアップパドルボード（SUP）といったアウトドアスポーツの人気は非常に高まっており、西予市においても様々なイベントや普及活動が展開されている。これらアウトドアスポーツと、景観美に優れたジオサイトを多く有する四国西予ジオパークと結びつけることで、健康増進と地域の魅力を知るジオパーク学習との相乗効果を図ることができることから、四国西予ジオパークの魅力を活かした各種アウトドアスポーツの普及促進を図る。

### (1) ジオの魅力を活かしたウォーキングの推進

#### 計 画 内 容

市内の多様なジオサイトを楽しむことができるウォーキングやノルディックウォーク等のコースの拡充を行い、市民の健康増進と四国西予ジオパークの普及啓発を図る。

#### 1. 現状・課題

西予市では市民の健康増進のため、ウォーキングやノルディックウォークなどの普及活動が行われている。

ジオパーク活動と親和性が高いと思われ、連携と支援を行う必要がある。



ノルディックウォーク  
(四国西予ジオミュージアム)



フットパス(黒瀬城)



## 2. 計画詳細

ノルディックウォークやウォーキングの普及活動の一環で行う健康教室を継続的な取り組みとするため、ジオパークの魅力発信と併せて、地域づくり活動センターやジオガイド等と協働して実施する。

また、地域の魅力を歩いて楽しむジオツアーとして、地域づくり組織等が主体的な取り組みを始めている「フットパス」は、地域住民にとって楽しみながらの健康増進にもつながる。

ジオパーク推進室は、地域スポーツクラブが主体となって実施するノルディックイベントや、地域づくり組織等が進めるフットパス、健康ウォーク等を支援し、ジオサイトを活用した取り組みを推進する。

## 3. 達成目標

- ジオを絡めたウォーキング等の開催件数 年2回以上
- ジオを絡めたフットパス等の開催件数 年2回以上

## (2) ジオの魅力を活かしたサイクリングの推進

### 計 画 内 容

四国西予ジオパークの魅力を活かしたサイクリングコースを整備し、ジオパークを楽しめるサイクリングの普及促進を図る。

## 1. 現状・課題

愛媛県では全県域を、誰もが自転車に親しみ、自転車を楽しめるサイクリングパラダイスを目指す「愛媛マルゴト自転車道」を展開しており、県と各市町村が連携しハード・ソフトの環境整備が進められている。西予市においては、海岸と里山を巡る特徴的な2つのサイクリングコースが設定されている。

令和4年度から(一社)西予市観光物産協会が四国西予ジオミュージアムなど市内観光施設に電動アシスト自転車(E-BIKE)27台を設置し、観光施設等を起点としたコース作成などE-BIKEを用いた誘客事業を実施している。

## 2. 計画詳細

建設課及び経済振興課は、県と連携して四国西予ジオパークの魅力を活かしたサイクリングコースの整備を推し進める。(一社)西予市観光物産協会が進めている E-BIKE を誘客事業において、四国西予ジオミュージアムに5台の E-BIKE が設置され、これを活用したジオサイト巡りなどを展開する。また、ジオパークとサイクリングの相乗効果によるさらなる魅力を醸成し、ジオを満喫できるサイクリングイベント等を地元スポーツクラブやジオガイド、(一社)西予市観光物産協会と連携し定期開催することでサイクリング人口の拡大と四国西予ジオパークの普及促進を図る。



四国西予ジオサイクリング(城川地域)

## 3. 達成目標

- ジオの魅力を活かしたサイクリングイベントの開催件数 年2回以上

### (3) ジオの魅力を活かしたその他アウトドアスポーツの推進

#### 計 画 内 容

四国西予ジオパークの魅力を活かしたトレイルランニング、SUP などの活動を支援し、ジオを絡めたアウトドアスポーツの普及促進を図る。

## 1. 現状・課題

民間の団体等が実施しているトレイルランニングやスタンドアップパドルボード (SUP) などのアウトドアスポーツは、四国西予ジオパークの魅力が体験できる場所で実施されることが多い。

## 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は民間事業者と連携して四国西予ジオパークの魅力を活かしたアウトドアスポーツへの支援を図る。



スタンドアップパドルボード(SUP)

## 3. 達成目標

- ジオの魅力を活かしたアウトドアイベントの開催件数 年2回以上

## 7-10 その他

### (1) ジオガイドネットワーク及び地域ガイド組織への活動支援

#### 計 画 内 容

四国西予ジオガイドネットワークの活動と地域ガイド組織の活動を支援し、ガイド同士の交流促進、ガイドスキルの向上を図る。

#### 1. 現状・課題

平成 26 年 7 月に四国西予ジオパーク内のガイド活動や会員同士の情報共有、他地域との交流促進を目的として、ジオガイド団体である四国西予ジオガイドネットワークが設立されている。

また、地域づくり組織や地域関係者で構成されているジオガイド組織は、そこで暮らしている住民ならではの話ができる「ローカルジオガイド」であり、ジオ多様性を特徴とする四国西予ジオパークは、ツアーの目的や楽しみ方を引き出すために、双方のジオガイド組織を連携させながら推進していく必要がある。

#### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、四国西予ジオガイドネットワーク及び地域ジオガイド組織の活動を支援し、ガイド同士の交流促進やジオガイド養成講座、ステップアップ研修等を通じたガイドスキルの向上に努める。また、新規ガイドの人材発掘やジオに興味を持つ人たちが参加しやすい環境整備を行いながら、情報提供や学習会などを通じてガイド関連団体の活動を継続的に支援し、ツアーだけでなく、イベントや教育活動などでガイドが活躍できる機会を積極的に創出していく。

#### 3. 達成目標

- ガイド交流会件数 年 2 回以上

## (2) JGNやブロック地域と連携した活動の推進

### 計 画 内 容

JGN内での連携プログラムの推進や、中四国近畿ブロックと連携した活動を行い、他地域における先駆的・効果的な活動を学びながら、ジオパーク活動の質の向上やネットワーク間の連携強化に努める。

### 1. 現状・課題

日本ジオパークネットワークでは、親子で体験できる岩石標本づくりや防災教育など、他のジオパークと連携したプログラムを共同で実施している。

また、地域を6ブロック（北海道・東北・関東・甲信越中部・中四国近畿・九州）に区分し、各ブロックが主体となったジオパーク活動の推進も重要であるため、ブロック会議の開催やブロック研修会等への参加を積極的に行い、日本ジオパークネットワークの一員として他地域との相互交流や情報交換に努める必要がある。

### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、日本ジオパークネットワークの活動及び中四国近畿ブロック活動を継続的かつ効果的に行い、ジオパークとしての質を高めていく。

また、中四国近畿ブロックよりも比較的参集が容易である四国内のジオパーク関係地域とより密接なネットワーク形成を進め、事業運営における課題や先行的な施策の共有、ガイド同士の交流を図り、ネットワークの連携強化に努める。



日本ジオパーク全国大会ブロック別パビリオン



四国のジオパーク活動地域と連携した  
オンラインギャラリートーク

### 3. 達成目標

- ブロック会議の開催 年1回以上

表5.日本ジオパークネットワーク・中四国近畿ブロック構成団体

	地域名	構成市町村
①	山陰海岸	兵庫県豊岡市、香美町、新温泉町、京都府京丹後市、鳥取県鳥取市、岩美町
②	室戸	高知県室戸市
③	隠岐	島根県隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村
④	四国西予	愛媛県西予市
⑤	南紀熊野	和歌山県新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町、奈良県戸津川村
⑥	Mine秋吉台	山口県美祢市
⑦	島根半島・ 宍道湖中海	島根県松江市、出雲市
⑧	萩	山口県萩市、山口市、阿武町
⑨	土佐清水	高知県土佐清水市
⑩	三好	徳島県三好市



### **(3) 推進協議会体制の強化**

#### **計 画 内 容**

四国西予ジオパーク推進協議会内の各部会活動や、各団体同士の情報交換、連携事業等を推進し、市民が主体となったジオパーク活動の充実を図る。

#### **1. 現状・課題**

市内約 50 の組織により平成 24 年 7 月に設立された四国西予ジオパーク推進協議会は、平成 29 年に部会の体制等の変更を行い、各種事業を部会主導で実行する活動的な組織へと変化している。継続して組織強化を図っていく必要がある。

#### **2. 計画詳細**

四国西予ジオパーク推進協議会は、各部会の自主的な活動を支援し、会に所属する各団体同士の密接な情報交換や連携事業、農協や商工会、協議会員等が独自に進めるジオパークを活用した取り組み等を支援する。

また、ジオパークを持続可能な取り組みとするために、これまでの推進体制をさらに見直し、部会員や会員からの声やアイデアを自らが具体化していけるような仕組みづくりを行う。

#### **3. 達成目標**

- 協議会員が行うジオパーク活用事業数 年 5 件以上
- 協議会部会活動件数 年 15 回以上

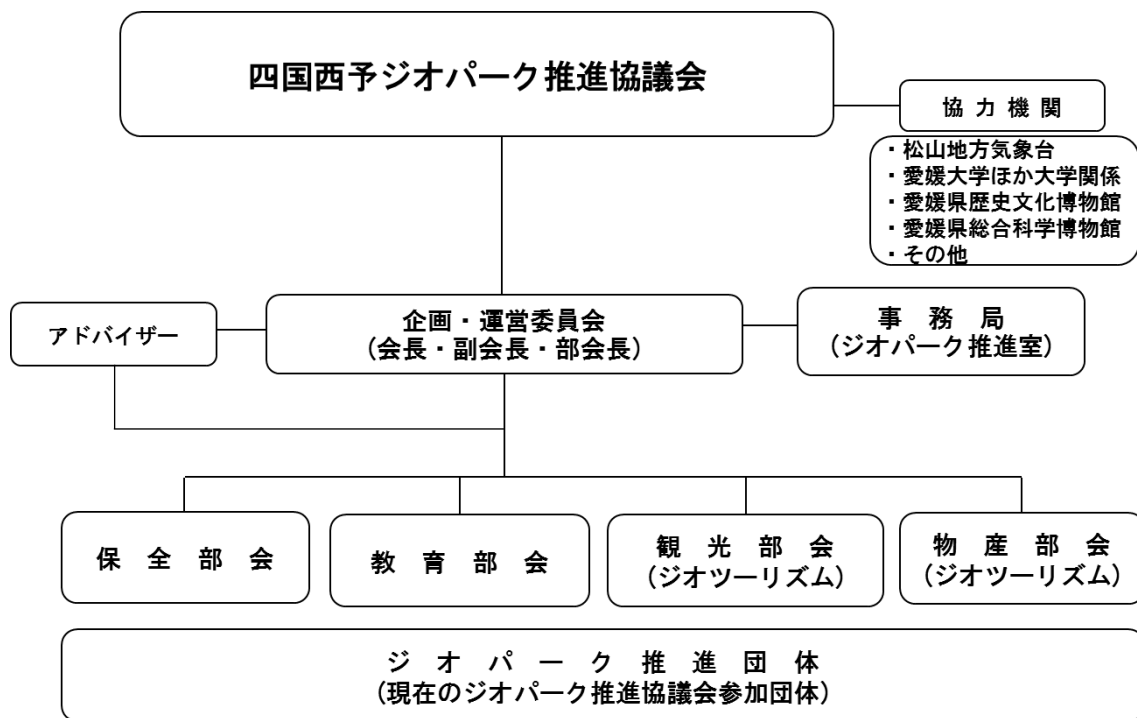


図 10.四国西予ジオパーク推進協議会組織図

#### (4) 効果的な広報活動の戦略的展開

##### 計画内容

対象を絞り、いかにジオパークの魅力を伝えていくかを定めることで効果的な広報活動を実現し、メディアや各種媒体に戦略的なPRを進める。

##### 1. 現状・課題

四国西予ジオパークは、2013年に初めての認定を受けて9年目を迎えているが、ジオパークに関心をもっている市民は多いとは言えないため、今後も効果的な広報を継続的に行っていく必要がある。

市民や団体と連携した様々なジオパーク活動が行われているものの、それらの活動が見えにくいことから、効果的な情報発信を戦略的に進める必要がある。

## 2. 計画詳細

ジオパーク推進室はメディアや各種媒体を有効活用した効果的な広報活動を行うために、対象を絞り、ジオパークの魅力や地域の価値をどのように伝えるかを定めたブランディング戦略を2015年に策定した。

今後も引き続き、ブランディング戦略に基づきながら、ホームページやフェイスブック等による効果的な情報発信、統一デザインによる整備等による全方位に向けたメディアミックス活動によってブランドイメージの定着を図る。

## 3. 達成目標

- HP閲覧者数の増加 対前年比10%増

### (5) 四国西予ジオミュージックプロジェクトの展開

#### 計 画 内 容

音楽とジオパークの融合というこれまでにない取り組みによって四国西予ジオパークのさらなる魅力を創造し、新たな観光客層の取り込みによる交流人口の拡大及び地域資源の磨き上げ、並びに四国西予ジオパークの知名度・認知度の向上に繋げる。

## 1. 現状・課題

平成27年度に国の地方創生推進交付金を活用して、ジオサイトの雰囲気と合致し、その魅力を高め、相乗効果を発揮する楽曲＝ジオミュージックをより多く集めるために、ネット上で開催した音楽コンテスト等によって多くの音楽コンテンツを作成した。

音楽コンテンツについては、著作権を西予市が有しており、市内の映像や動画などと組み合わせた展開を図っている。また、BGMとしての利用を希望する市の関係施設や民間施設には無料で提供している。

## 2. 計画詳細

集めた音楽コンテンツを活用し、地域の様々な魅力を視覚的に伝えるプロモーションビデオの製作などの多面的な取り組みを進める。これにより、対外的な四国西予ジオパークのプロモーション活動を強化する。

並行して、ジオミュージックを活用した音楽コンテンツについては市内公共施設及び民間施設での展開を積極的に進め、市民への普及・浸透を図る。

### **3. 達成目標**

■ジオミュージックやプロモーション動画等の活用件数

令和7年度末までに20件以上